



【展示物名】 「近世コーナー」 (2F)

【該当する学年】 小3 小4 小5 **小6** 中1 **中2** 中3

【学習指導要領】

<小学校6年> 「我が国の歴史上の主な事象」

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。
カ 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること。

<中学校2年> 歴史的分野

(2) 近世の日本

イ 江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などを通して江戸幕府の政治の特色を考えさせ幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。

ウ 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。

【写真】



【江戸時代後期の藩領図】



【城ヶ崎の町並みジオラマ】

【展示物の説明および学習内容 (ねらい)】

☆ 「近世コーナー」では、近世(江戸時代)の宮崎平野の様子を、イラスト・写真・出土遺物などによって紹介している。特に、宮崎平野の小藩分立状況について、藩・幕府ごとにその領域を色分けした地図を展示しており、郡境、主な村名・石高、寺社・名所旧跡を理解できるようになっている。また、「元禄国絵図」の宮崎平野部分の複製品の展示は、国絵図そのものが宮崎県内博物館の常設展では初めての展示であり、多くの来館者の注目を集めているが、この国絵図から、当時の海岸線や川の流れと現在の共通点や違いを理解できる。

☆ **中学校2年「江戸幕府の成立と支配のしくみ」**では、「元禄国絵図」から、自分たちの住む町や学校がどの藩に属していたかを探ることができる。そして、幕府領(天領)と5つの藩領が入り組む複雑な状況から**江戸幕府の支配の巧妙さ**に気づかせることができる。

☆ **小学校6年「江戸の文化と新しい学問」**や、**中学校2年「農業や諸産業の発達」**および**「都市の繁栄と元禄文化」**では、城ヶ崎の町並みジオラマなどを用いて、大淀川右岸の城ヶ崎や中村町が赤江湊(みなと)を背景に、**上流の諸県地方からの物資の集散地として発達したことを学習**できる。また、ジオラマの商家1軒1軒の造りが大きいことなどから、**町人が栄えていた様子**を理解することができる。